

アジアの友

The Asia-no Tomo

6-7

JUNE-JULY

2017

「平成 28 年度専門学校留学生受入れ実態調査」から見る
専門学校の留学生受入れ状況とこれから
専門学校の取組み 学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校
奨学団体に聞く 公益財団法人 東華教育文化交流財団





日本語教師の 学びの楽しみ・楽しみの学び

日 本国内の留学生を支援してきた公益財団法人 アジア学生文化協会創立60周年を記念し、同協会が設立した
学校法人ABK学園と共催で、「ABK日本語教育セミナー」を行います。東京外国語大学の荒川洋平先生
に、日本語教師に必要な学びについて、具体的にわかりやすくご講義いただきます。これから日本語教師を目指そ
うと思っている方、日本語教育の経験の浅い方、日本語教育に携わっているけれど、悩みを抱えている方にとっ
て、有益な内容満載です。

9月30日(土) 13:00 受付開始 12:30

13:00~15:30 ご挨拶・講義
15:30~16:30 懇親会

参加費：無料

対象：経験の浅い現職教師、日本語教師を目指している方
定員：100名(応募多数の場合は抽選)



講師：荒川洋平

(東京外国語大学国際日本学研究院教授)

専門は応用認知言語学、国際言語管理。現在、NHK国際放送
の日本語番組「Japan-easy」の言語監修および読売新聞英字
紙「The Japan News」にて日本語学習コラム「Sound Smart in
Japanese」を連載中。『日本語教育のスタートライン 本気で
日本語教師を目指す人のための入門書』『もしも…あなたが外
国人に「日本語を教える」としたら(正・続)』『スリーエネット
ワーク』『日本語という外国語』(講談社)はじめ、著書多数。

語 学教師の仕事の一つは「勉強」です。何となく「事務」や「教務」
が仕事になってしまっている方も少なくないと思いますが、それ
らが勉強に先んじるのは、あまり健全なあり方とは言えません。か
といって忙しい日々のうちに時間を割いて勉強する以上、それは楽しい
ものでないかと続かないし、また本来、勉強の対象である「知」には、楽し
みがいっぱい詰まっているはず。それではそこにどうやって分け入
り、またそこで得た成果をどのように日々の授業や仕事に活かしてい
たらいいのでしょうか？今回は、次の8点をキーワードに、日本語教師
の学びについて考えます。

- ①自分の目標とたな卸し
- ②周囲の目と思い込み：それを阻むもの
- ③論文ほど面白いものはない
- ④ユーモアは何のため、誰のため？
- ⑤日本語教師の異種格闘技戦
- ⑥文脈化で3年遊ぼう
- ⑦『みんなの日本語 初級』チョイ足しのカリキュラムデザイン
- ⑧ちょっとアウトプットしよう



申込み スリーエネットワーク講座係

FAX:03-5275-2729 E-Mail:kouza@3anet.co.jp
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4トラステイ麹町ビル2F

お申込みの際は、セミナー名・お名前・ご所属・ご住所・お電話番号、及
び日本語教授歴・この講座に期待すること・懇親会参加の有無を明記
してください。電話での申込みはお受けできませんので、FAX、E-Mail、
はがきにてお申込みください。

締切 8月31日

会場：
(一財)海外産業人材育成協会(AOTS)

東京研修センター

住所：東京都足立区千住東1-30-1 ☎ 03-3888-8231

※北千住駅東口より徒歩10分

主催：公益財団法人アジア学生文化協会
学校法人ABK学園
後援：一般財団法人海外産業人材育成協会
一般社団法人日・タイ経済協力協会
春日経済技術振興協会
春日工業大学
協賛：スリーエネットワーク
問合せ：TEL:03-5275-2722
(スリーエネットワーク講座係)



アジアの友

2017年6・7月号 第527号

目次

	巻頭
2	「平成28年度専門学校留学生受入れ実態調査」から見る 専門学校の留学生受入れ状況とこれから
	専門学校の取組み
11	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校
	留学生の就活
18	東京外国人雇用サービスセンターに聞く 最近の留学生求人と在留許可 統括職業指導官 吉田 功二さん
	奨学団体に聞く
21	公益財団法人 東華教育文化交流財団
	私の意見私の体験
28	「アニメがくれた幸せな日本留学」 ブンインヨン サリンティップ（ティーン） ～タイ
	連載コラム
31	泰日工業大学 奮闘記（第24回） 「期待の新人」 池田隆
33	アジア学生文化協会創立60周年記念行事のご案内
	ABK is My Home
34	最近の出来事&懐かしの来館者
35	知友会通信
36	MEMBERS

<表紙> 荒川区東共栄町会の天王祭にて
神輿を担ぐ ABK の学生たち

「平成28年度専門学校留学生受入れ実態調査」から見る 専門学校の留学生受入れ状況とこれから

本誌前号でもお伝えした通り、日本学生支援機構（JASSO）が集計した2016年度の外国人留学生在籍状況調査結果によると、2016年5月時点の留学生総数は239,287人と過去最高を記録。このうち最も増加したのが日本語教育機関で、前年比11,848人増の68,165人。次に専修学校専門課程（専門学校）が前年比11,581人増の50,235人で続いた。

一般財団法人日本語教育振興協会が行った日本語教育機関卒業後の進路調査によると、2016年度卒業生のおよそ6割が専門学校に進学しており、日本語学校から専門学校へという流れが定番化しつつあると言える。

特にその中心となっているのがベトナム、ネパールなど非漢字圏からの留学生で、彼らは卒業後、日本での就労意識も高い。

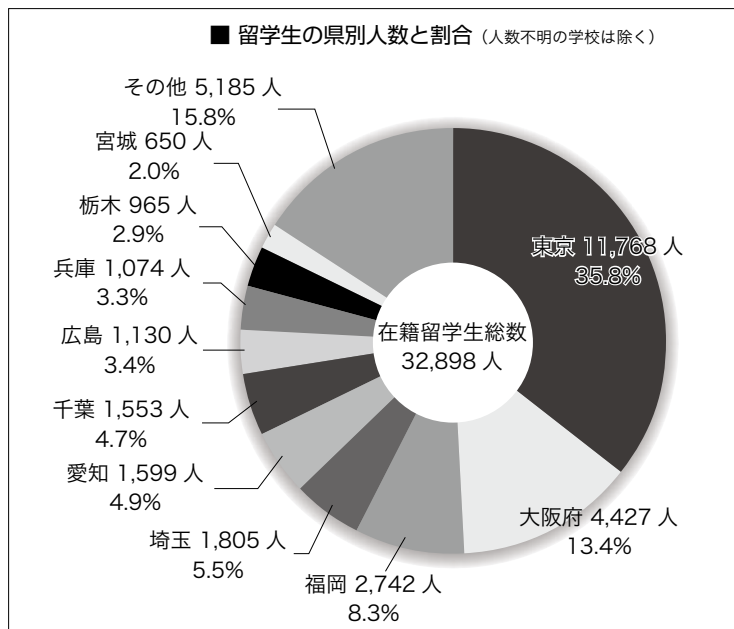
少子高齢化により減少を続ける日本の労働人口を維持するうえで、日本語学校で日本語を学び、専門学校で高度な技能を身に付けた外国人中堅人材を育てることは、日本経済が今後成長をしていく上での重要なファクターとなりえるのではないだろうか。

こうした状況の中、昨年11月の改正入管法に

より、在留資格に「介護」が新設され、この9月より運用が開始される。専門学校での学びと直結した初めての在留資格ということで、関係者の期待と注目を集めている。

一方で、非漢字圏からの留学生増加は、改めて留学生の日本語力の問題をクローズアップすることになった。選考時点での学生の日本語力をどのように判断するのか。入学後の日本語サポートはどうするのか。ノウハウのない学校が安易に留学生を受入れることで、これまでにない負担を背負う可能性もある。

また経済面に目を向けてみると、学生を供給する側である日本語学校では、大幅な法定時間超過の就労、失踪などの問題が顕在化し、ネガティブな報道もなされている。こうした



問題が専門学校では起こらないという保証はない。

この他にも、就職支援に絡んでは在留資格等の知識が必要となり、減少する日本人学生の穴埋めにと、簡単に留学生の受入れを開始できるものではないだろう。

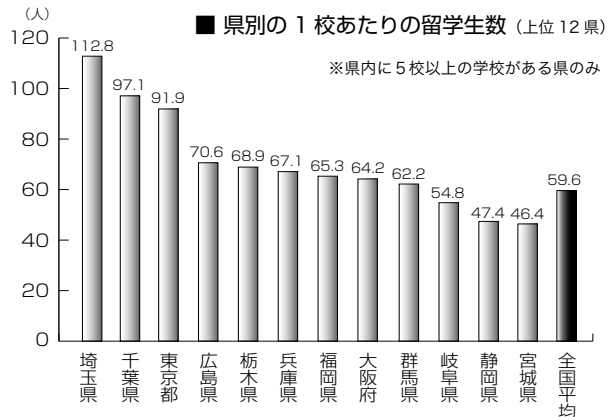
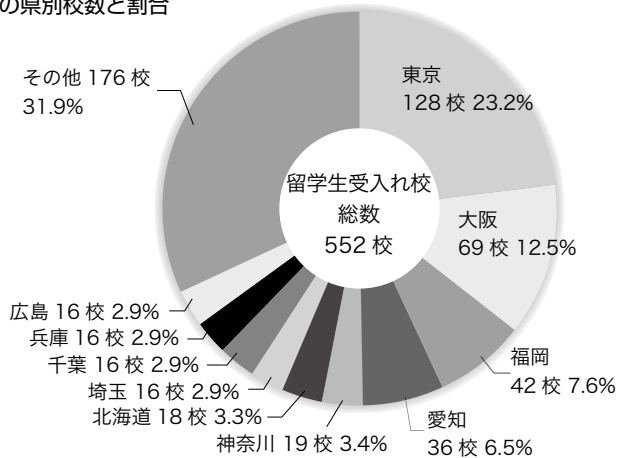
文部科学省委託事業の専修学校留学生アシスト事業により一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団がまとめた「平成 28 年度専門学

校留学生受入れ実態調査」によると、留学生が在籍していると回答した学校は、563 校（昨年度 521 校）、留学生総数は、32,898 人（同 24,358 人）で、8,540 人もの大幅増となった。有効回答校数=2,253 校のうち、25.0%に当たる 563 校（実数回答校 552 校）が留学生を受け入れている。

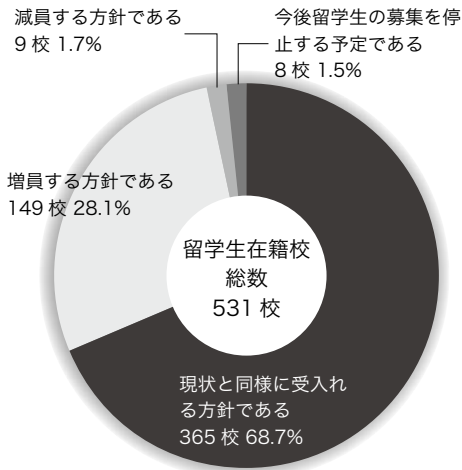
本調査データを見ながら、専門学校の留学生受け入れの現状を検証したい。

■ 留学生受け入れ学校の県別校数と割合

1 校あたりの在籍留学生数は平均で 59.6 人。1 校あたりの留学生数が多い県としては、埼玉と千葉が東京を上回っており、特に埼玉は全国平均の 2 倍近い数値となっている。なお、学生のほとんど、もしくは全てが留学生という学校も存在するようだが、平成 22 年の法改正により、一定の要件を満たす適正校（在籍管理が適正に行われていると入管から認められた教育機関）については総入学定員の半数を超えて留学生を受入れることが可能となっている。

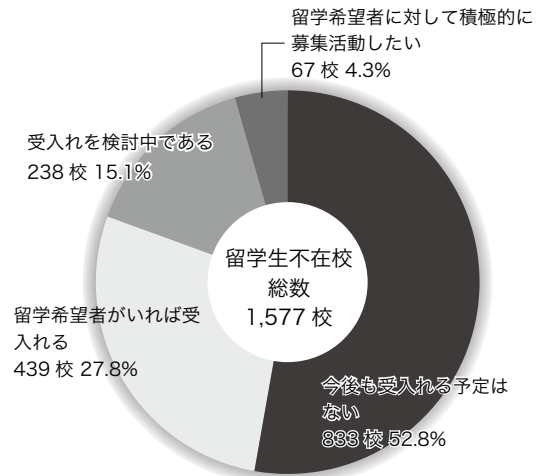


■留学生在籍校の今後の受け入れ方針



※未回答、不明校（32校）は除く

■留学生在籍していない回答校の今後の受け入れ方針



※未回答、不明校（91校）は除く

■留学生在籍していない理由

理 由	回答数 (件)	割合 (%)
留学生の入学希望者がいないため	884	31.9
学校側の受け入れ態勢や環境が整っていないため	824	29.8
留学生の日本語能力や生活対応力に不安があるため	444	16.0
卒業後の就職が困難なため（就労ビザの問題）	265	9.6
国家試験の受験資格に該当しないため	117	4.2
学校の方針としているため	104	3.7
その他	132	4.8
総 数	2,770	100.0

現在留学生を受け入れている学校については、ほぼ9割の学校が今後も受け入れを行っていくと回答している。現在留学生不在校（1,577校）についても、半数近い学校が受け入れに対して前向きな姿勢を示しており、今後も留学生受け入れ校数は増加していくものと思われる。

一方で、「留学生在籍していない理由」については、学校側の受け入れ態勢や日本語力、生活対応力への不安をあげている学校が多い。他校と経験を共有する、留学生経験の豊富なスタッフを採用するなどして、少しずつ留学生受け入れのノウハウを蓄積していくことが必要だろう。

また、職業教育機関としての専門学校の役割を考えた場合、職種上在留資格がとれない＝就職させることができない以上、受け入れるべきではないと考えている学校も多いようだ。このあたりについては、制度改変や入管の判断基準変更等により、学校の受け入れ姿勢は柔軟に変わるものと思われる。

■ 出身国別入学者数と受入れ校数（2016 年）

		合計	ベトナム	中国	ネパール	台湾	韓国	スリランカ	ミャンマー	インドネシア	バングラデシュ	タイ	モンゴル	フィリピン	マレーシア	インド	ロシア	カンボジア	その他
入学者数	人数	25,962	8,946	6,468	5,352	1,108	1,086	710	540	291	200	182	175	106	83	75	33	26	581
	割合	100.0	34.5	24.9	20.6	4.3	4.2	2.7	2.1	1.1	0.8	0.7	0.7	0.4	0.3	0.3	0.1	0.1	2.2
受入れ校数	校数	1,959	271	369	166	179	184	90	92	103	44	69	85	55	46	27	24	15	140
	割合	100.0	13.8	18.8	8.5	9.2	9.4	4.6	4.7	5.3	2.3	3.5	4.3	2.8	2.3	1.4	1.2	0.8	7.1

出身国別留学生数は 2015 年に僅差で中国を抜いてトップに立ったベトナムが、その差を広げ 1 位の座を維持した。そのベトナムやネパールの学生は 1 校あたりの平均在籍者数が 30 人以上と、中国（平均約 16 人）を始めとした他国より多い。非漢字圏の学生を積極的に受入れている学校と、そうでない学校があるようだ。

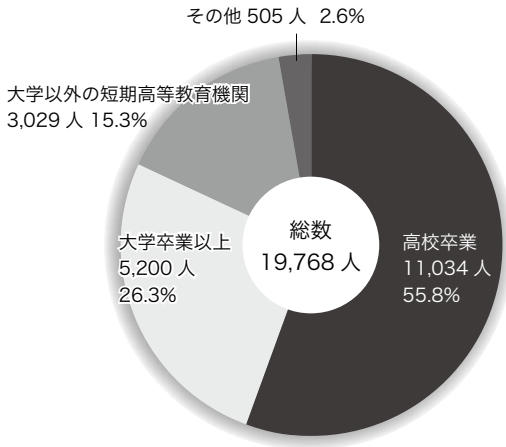
■ 入学経路別入学者数

国	2013 年		2014 年		2015 年		2016 年	
	日本語	現地	日本語	現地	日本語	現地	日本語	現地
ベトナム	411	314	3,746	705	4,664	1,273	6,869	2,076
中国	2,733	389	1,738	888	4,804	836	5,075	1,388
ネパール	379	148	1,336	430	2,698	549	4,551	706
台湾	360	159	378	263	607	433	676	428
韓国	375	167	395	228	618	266	625	461
スリランカ	73	4	128	19	266	42	556	150
ミャンマー	66	4	191	11	291	48	416	113
インドネシア	26	19	56	42	168	25	237	48
バングラデシュ	12	5	20	11	35	9	161	35
タイ	57	19	71	59	96	88	119	62
モンゴル	50	32	70	33	98	24	118	57
フィリピン	18	5	26	10	45	18	71	31
マレーシア	17	5	24	4	45	9	62	21
インド	15	7	25	5	56	3	45	19
ロシア			23	1	29	2	30	2
カンボジア			22	1	23	6	23	3
その他の国	132	86	165	118	258	97	587	141
計	4,724	1,363	8,414	2,828	14,801	3,728	20,221	5,741

※日本語…日本語学校経由 現地…現地から直接 ※ 未回答・不明分は除く

専門学校へ入学する留学生のほとんどが日本語学校を経由しており、現地からの直接入学者のほぼ 4 倍程度で毎年推移している。本調査実行委員会は、2016 年に現地から直接入学している学生は 5,741 名で、その数字が（専門学校の）日本語科に在籍する学生数 5,253 人と近いことから、直接入学者の大多数が日本語科に入学する学生で占められているのではと推測している。

■ 母国での最終学歴

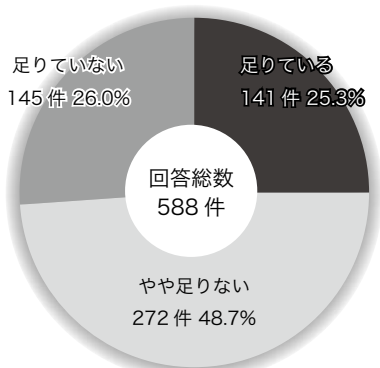


全体の41.6%が母国で大学卒業以上もしくは大学以外の短期高等教育機関を卒業している。特に台湾(66.4%)、ミャンマー(67.8%)、タイ(56.7%)はその割合が5割を超えている。一方で、ベトナム、ネパール、スリランカといった近年日本における留学生数を急増させている国については、6割以上が高卒者となっている。

■ 最終学歴別入学者数と割合（在籍学生数上位10か国）

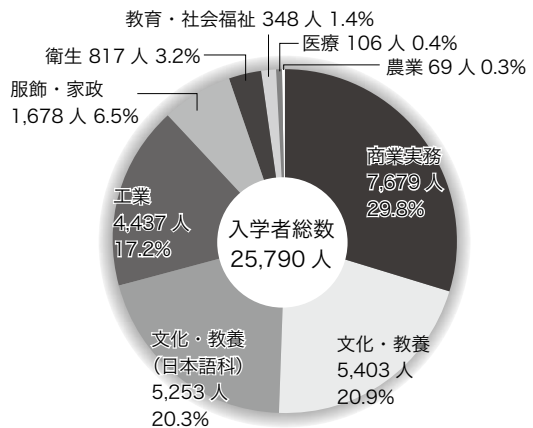
	大学卒業以上		大学以外の短期高等教育機関		高校卒業		その他		合計	
	人数(人)	割合(%)	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ベトナム	1,227	18.3	1,107	16.5	4,243	63.1	142	2.1	6,719	100
中国	1,559	32.6	786	16.4	2,307	48.3	128	2.7	4,780	100
ネパール	707	16.7	690	16.3	2,711	64.1	121	2.9	4,229	100
台湾	658	66.4	75	7.6	236	23.8	22	2.2	991	100
韓国	229	25.4	108	12.0	535	59.2	31	3.4	903	100
スリランカ	53	13.8	83	21.5	244	63.4	5	1.3	385	100
ミャンマー	234	67.8	16	4.6	83	24.1	12	3.5	345	100
インドネシア	106	37.7	14	5.0	154	54.8	7	2.5	281	100
バングラデシュ	21	23.6	22	24.7	42	47.2	4	4.5	89	100
タイ	85	56.7	8	5.3	57	38.0	0	0	150	100

■ 入学した留学生（日本語科を除く）の日本語能力について



※未回答、不明分は除く

■ 分野別留学生入学者数



※2016年5月1日現在。未回答、不明分は除く

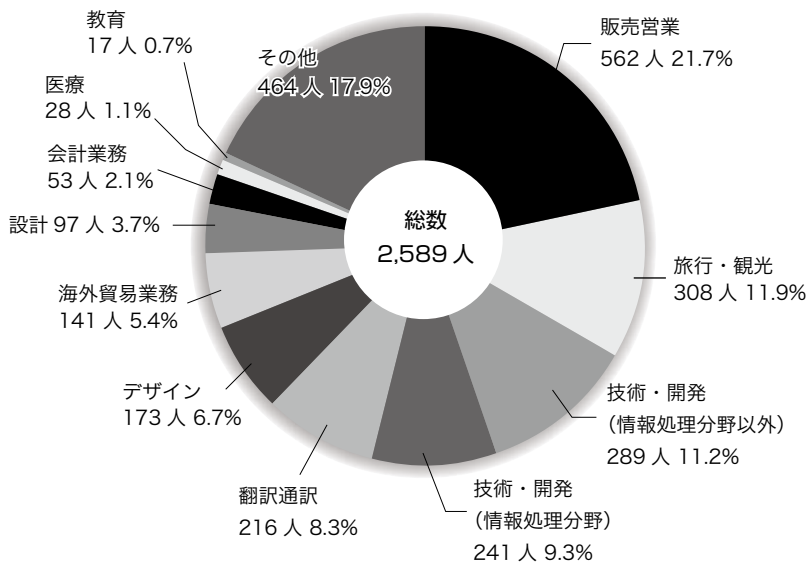
■ 2016年3月に卒業した留学生の進路

	専門学校	大学	大学院	短期大学	帰国	日本で 就職	就職 活動中	その他	合計
①日本語科以外 の学科を卒業	810 (人)	845	75	23	913	2,297	659	376	5,998
	13.5 (%)	14.0	1.3	0.4	15.2	38.3	11.0	6.3	100
②日本語科を 卒業	1,691 (人)	527	96	21	259	203	37	127	2,961
	57.1 (%)	17.8	3.2	0.7	8.7	6.9	1.2	4.4	100

※未回答、不明分は除く

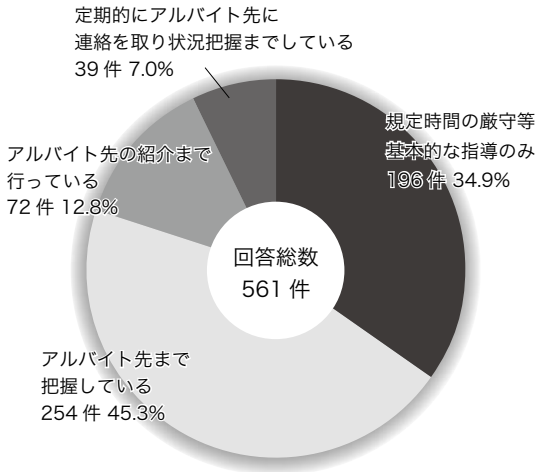
2016年3月に卒業した留学生は8,959人で、日本語科以外を卒業した者は5,998人、日本語科を卒業した者は2,961人だった。日本語科を卒業した留学生のおよそ8割は専門学校や大学に進学しており、日本で就職または就職活動中の学生数(8.1%)を大きく上回っている。一方で、日本語科以外を卒業した留学生は49.3%と、およそ半数が日本で就職もしくは就職活動中となっている。なお、「就職希望者に占める就職者の割合」で見た場合、日本で就職を希望した者(①②合計)で3,121人(前年2,134人)に対して実際就職した者は2,500人(前年1,615人)ということで、就職率は80.1%(前年75.7%)となり、就職希望者数、就職率ともに増加した。

■ 留学生の就職できた職種



※ 2016年3月末時点。回答校245校

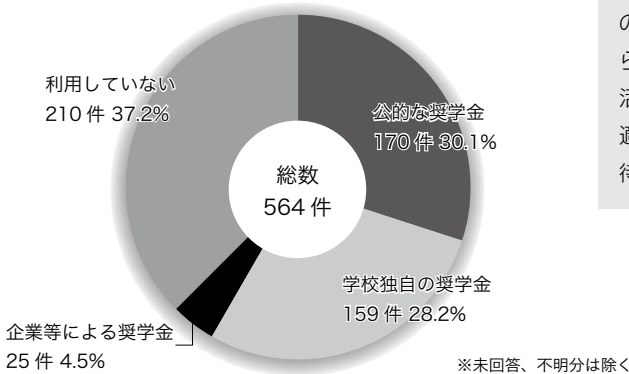
■ 留学生のアルバイト状況把握について



多くの留学生にとって欠かせないアルバイトだが、週28時間を超える超過時間労働問題や、学習面への影響など、気を配らなければならない点も多い。こうした中、多くの学校がアルバイト先まで把握するなど、積極的な管理・サポート態勢で、問題の発生を未然に防ごうとしているようだ。

一方で、奨学金については、多くが学習奨励費などの公的奨学金の利用か、学校独自の奨学金に支えられているものの個々の受給額は決して高くはないと思われる。専門学校生の場合、民間財団等の奨学金を受けられる機会は少なく、将来企業での活躍が期待される優秀な留学生が、適切な支援を受けられる仕組みも期待される。

■ 奨学金の利用について



これまでのデータを踏まえ、公益社団法人 東京都専修学校各種学校協会の後藤由利 業務課課長に、これからの留学生受入れ、送り出しについて、お話をうかがった。

専門学校の留学生受入について

—— 今回の調査では留学生が在籍している学校563校に対して、在籍していない学

校が1,668校とのことで、留学生を受入れていない学校が思いの外多いように思いました。

受入れ態勢や環境が整っていないというのが一番の理由で、その次に職業教育機関として送り出しが難しいという理由があります。医療系の学校などは卒業して国家資格をとっても、該当する在留資格がなければ就職が難しいということで、留学生受入れの意向はあっても、現実と

して受入れることが困難であるという所は多いと思います。

—— 在籍する留学生の日本語能力については不十分と考えている学校が多いようです。

学校は秋頃に留学生の募集・選考を行うわけですが、日本語能力については当然その頃より入学時点の方が伸びていると考えるわけです。ところが、非漢字圏学生の場合、漢字圏の学生に比べて、先生方が予想していたほど日本語力が伸びていなかったということがあるそうです。このため日本語の補習クラスを作っている学校もありますが、そこまで時間や人員を割けないというのが現状です。ですから、日本語学校と専門学校がいかに連携して送り出しと受入れをスムーズに行うかということについては、当協会として取り組む必要がある課題と考えています。

—— 日本語教育機関では学生の経済面に起因する問題が起っていますが、現状専門学校ではいかがでしょう。

アルバイトと勉強の両立など生活指導面では、かなり苦勞して指導されている学校もあるようですが、実際には日本語能力と合わせて学費の支弁能力は入学選考時の重要なチェック項目となりますから、そこがある程度担保できない場合、入学をお断りしているというのが現状ではないでしょうか。東京都の学校に関しては、その点慎重に確認し受入れを行っていると思います。

—— 経済面については、専門学校の留学生が受けられる民間財団の奨学金はあまりないようです。業界内で特別な支援体制のようなものはあるのでしょうか。

現状では留学生には入学金を免除するといった、学費減免の制度を行うなど学校がそれぞれの努力で対応されています。学校にとっては経費負担となりますが、質の高い留学生を受入れることで、学校の評価が上がり、結果として日本語教育機関も優秀な学生を紹介してくれるようになりますから、その効果は高いわけです。

また、奨学金については、企業との連携をいかにしていくかということもポイントになると思います。専門学校が人材を育て、企業がその育った人材を雇用する。そのために、企業が奨学金制度を設けるなど、支援制度が充実されることが理想的ではないでしょうか。

留学生の就職について

—— 専門学校で技能を身に付けた留学生が就職へと向かう流れは、人材難に苦む中小企業にとって、大きな期待となっているのではないのでしょうか。

大企業は現地採用も含めて、外国人材の受入れをある程度組織的に進めていけるのですが、中小企業の場合、長期間の就業形態で雇用したいという要望があるわけです。しかし留学生の場合、生涯同じ会社で働きたいと考える人は少なく、ステップアップで転職したり、帰国したりしますから、そのあたり、留学生と企業側で意識のギャップが生まれています。就職したい留学生は大勢いるし、受入れたい中小企業も数多いのですが、働き方の問題で、なかなかそこがうまくかみ合わないというのが、今の状

況かなと思います。

—— 今回、実態調査を行った実施委員会の提言には、非漢字圏の留学生の多くは日本での就職、定住を希望しているとあります。

非漢字圏といっても、その辺は国によって違って、協会でも就職説明会を年に一回開くのですが、タイの方などは帰国しても日本語人材を求める企業が多く、それほど日本での就職には熱心ではありません。ベトナムの場合、就職希望者は多いのですが、ゆくゆくは帰国して起業したい、そのために日本で経験を積みたい、名前のある企業に勤めたいといった傾向が強いように感じます。一方、ネパールの留学生などは就労意識が高く日本での定住志向も強いようです。

—— データからは、全体に占める就職希望者が少ないようにも感じられます。

専門学校には日本語専攻の学科もありますから、大学進学のためにいったん専門学校に入学するという人も多く、全体で見ると就職希望者は1/3ほどになっています。大学進学希望者を除くと、就労希望者の割合はもっと増えてくると思います。

—— 多くの専門学校の在籍期間は2年間ということで、入学した翌年には就職活動がはじまります。

日本の就活のサイクルというのは他の国とは違うので、就職指導で先生方が一番苦労するのはその点のようです。学校での全ての勉強が終了した段階で、次に就職はどうしようかと考えるのが留学生ですから、就労意識を早めに付けさせるのが難しいと

うかがっています。専門学校というのはそれぞれ規模が全く違います。何万人という学生を抱えるところから数百人規模のところまで、企業側との連携についても今はそれぞれが個別に対応しているという感じです。そういった意味で、もう少し専門学校の就職担当の先生方が連携できるような仕組みを作ることも当協会の役割ではないかと感じています。

留学生にとっての専門学校

—— 今後、御協会が取組んでいくべきとお考えのことはありますか。

これは留学生だけでなく、日本人の高校生に対してもそうなのですが、職業教育である専門学校の質保証に関しては情報公開をきちんと進めて、留学生に対してはそれが国際通用性のあるものだということをアピールしたいと思っています。資格とか単位互換の問題もそれにつながっていくと思うのですが、それを確立し、日本の専門学校が世界的に認知されればいいなと思っています。

—— 留学生はどのような専門学校を選べばいいのでしょうか。

日本の専門学校で学んだことがその方の人生のキャリア形成につながる、ということが最も大切なのではないのでしょうか。中堅人材として日本で活躍するにしても、技術技能を生かして母国で活躍するにしても、しっかりとしたキャリア形成ができるような学校に進んでもらいたいと思います。

—— 本日はありがとうございました。

専門学校の取組み

学校法人 敬心学園 日本福祉教育専門学校

2016 年の入管法改正により新たな在留資格「介護」が創設、今年 9 月より運用が開始される。資格取得条件は「日本の介護福祉士養成施設（専門学校等）を卒業し、介護福祉士の資格を取得した外国人」ということで、これまでほとんどいなかったこの分野に進学する留学生の大幅な増加が見込まれる。こうした状況を迎え、介護福祉士養成校である専門学校では留学生受入れについてどのような準備、対策を行っているのか。来年度から本格的な留学生受入れを開始するという東京・新宿区の日本福祉教育専門学校にて、総務経理課長の太田勉さん、介護福祉学科学科長の八子久美子先生、日本語講師の日下倫子先生に、留学生受け入れの現状と課題、展望についてうかがった。

介護福祉士養成校からみた留学生

—— 日本で介護職として仕事をするためのステップが変わるとかがあります。

太田： 現状は、介護福祉士養成校を卒業後 5 年間は「介護職」として働くことが出来ませんが、現在の高校 2 年生（平成 31 年 4 月入学者）からは国家試験が導入されることが決まっています。ただし、もしもこの国家試験に不合格であった場合でも、本校のような養成校を卒業されていれば介護の現場で介護職として日本で働くことが出来るというのもポイントだと思います。

—— 現在、「介護福祉学科」に在籍する留学生数を教えていただけますか。

八子： 現状当校の留学生は多くはありません。2 年生が 10 名、1 年生が 9 名です。国籍でいいますと、フィリピン、ベトナム、ネ

パール、中国、韓国の 5 か国になります。

太田： これまで、留学生は他の学科を含めて各学年に 1、2 名という感じでしたが、在留資格に「介護」が創設されることになった昨年から増えてきたという印象です。

—— 今後、介護福祉学科の留学生を増やす予定はありますか。

太田： 今募集中の平成 30 年度から募集定員の半数である 40 人を留学生にしたいと考えています。受け入れ態勢が整わない中で大勢を入れてしまうと、留学生はもちろん日本人の学生にも迷惑をかけることになりますから、この数年間準備を進めてきました。特に日本語が十分でないとかどのような問題が起きるのかについては、教員も職員も経験を積み重ねてきました。

—— 現在の留学生について、どのような経歴の方が多いのでしょうか。



左から、日下先生、八子先生、太田課長

日下： 今の学生には母国で看護師をしていたけれど、「日本で働きたい」ということで本校に入学した方や、中国の医師で自分の祖母が認知症になった時にうまくケアが出来なかったことがきっかけで、日本で介護を学ぼうと入学された方、EPA（経済連携協定）で来たけれど、4年という期間内に国家試験に合格することが出来ず、改めて当校の留学生になって国家試験を目指している方。そのほか、日本語学校で新しい在留資格「介護」のことを知り、資格を取って日本で就職したいと入学してきた方などですね。

—— 選考段階での日本語力はどの程度とされていますか。

太田： 日本語能力試験（JLPT）のN2同等という形にしています。もちろんN2以上に限定したいのですが、中にはJLPTを受けていない学生もいますので、入試時には独自の日本語試験を行い、そこで一定のラインを作っています。これを余裕でクリアする学生もいれば、ボーダーラインの学生もいるわけ

で、このボーダーライン上の学生たちが結果的に入学後苦労しています。介護の仕事ではその方の性格やホスピタリティも大切なので、日本語力だけを選考基準にはできません。しかし、明らかに入学時の日本語力が不足していると、結果的に学生も大変です。そのような背景から、これから留学生が増えた時、私たちもどこまで細かいケアができるかを考えると、日本語力につ

いては選考時にしっかり確認をしなければと思っています。

留学生のための補講を実施

—— 留学生のための補講があるということですが。

日下： 1年生、2年生それぞれ週に3回、90分の補講を行っています。通常の授業では専門用語以前に普通の言葉や文法がわからないためにテキストが読めないという状況になっているので、主にテキストの難しい部分を「読解する」ということをしています。また、非漢字圏学生の場合、漢字能力が足りないために新しい言葉を覚えることが難しくなっています。ですから、次々に出てくる用語が少しでもわかりやすくなるように、漢字の学習も行っています。実は当初はN2、N1の文法事項等で重要なところを弱点克服のような形で行っていたのです。しかし、専門の授業と全く別に日本語の授業をすると効率が悪

く、学生も興味を示さないということがわかりました。そこで、現在は「授業で使う教材に沿って日本語の授業をする」「授業のポイントを各先生に聞いて、その復習を行う」など、専門の授業や実習と関連付ける形で学習を進めています。

—— 留学生教育で難しいのはやはり日本語力に関わる部分でしょうか。

日下： いわゆる抽象的なことを理解してもらうのに対応する日本語力ということです。日本で介護の専門家になるのなら、ただ身体介助ができるのではなくて、きちんと相手の状況を見ることができたり、チームでディスカッションをして、ケアプランを立てることが出来たりする専門家に育って欲しいと考えています。そのためには利用者の能力や人権、尊厳といった抽象的なことについても考えられるようにならなければなりません。しかし国によっては今までの暮らしの中でそういったことをあまり考えたことがなかったとか、教育されてこなかった人もいます。それに加えて、こうした話題について議論し、理解するだけの日本語力が必要になるということで、留学生の中でも特に高校を出てすぐに来られているような方は非常に苦戦しています。また、高齢者の方に対しては丁寧な言葉使いが必要になるのですが、その「敬語」が留学生にとっては難関の一つになっています。授業では見て聞いて、その時々暗記をして練習しているのですが、実際現場で使おうとすると適切な敬語が出てこないために、手も止まってしまう。実習が進まなくなってしまうわけです。ですから補講ではこの敬語は誰から誰に向けた

ものなのか、といったことを分解して説明し、いつでも敬語が自然に出てくるような練習をしています。

八子： こちらの教え方のノウハウもまだ十分ではありません。クラスの日本人学生は十代から六十代までと、もともと多様性があるのですが、具体的な例を出すと日本人はすんなり入っていきます。ところが、留学生のように文化や育ってきた環境が違っているとそう簡単にはいかないケースもあります。だからこそ、留学生にはもっとかみ砕いて説明したいのですが、決められた授業時間がありますので、ああ、ここはよくわかっていないんだろうなと思いながらどうしても進めないといけない時もありますね。そういう点でも補講につなげて行くことは重要で、そこで、「さっき先生が言いたかったことはこれだったんですね」とわかってもらえるわけです。ただ、まずは私たちの日本語の授業に、全てはわからないまでも、食いついてきて欲しいと思っています。

—— 就職した場合、介護記録や申し送りといった点でも日本語は重要ですね。

八子： 最低限、その部分は身に付けて卒業して欲しいと思っています。特に報・連・相（報告、連絡、相談）というところで、事実をしっかりと捉えて、今どういう状態だったのかということをきちんと報告することができ



現在日本にて介護職で就労できる外国人はEPA（経済連携協定）の下来日しているフィリピン、インドネシア、ベトナム人。滞在期間には4年間の制限があり、この間に国家試験に合格することで滞在の延長が可能。また、今回の在留資格「介護」の新設と同時に、外国人技能実習制度の職種に「介護」が追加された。実習期間は最長5年間。



るか?という点では、なかなかそこができません。遅刻や欠席についても、現場で働くようになるとより厳しくなりますから、学校で学んでいるうちにしっかり身に付けて欲しいのですが、長年の習慣なのか、なかなか改善できない人もいますね。

留学生の魅力と経済事情

—— 一方で留学生ならではの魅力があると思います。

八子： そうですね。他人に対するやわらかい姿勢や人懐っこさというのでしょうか。利用者さんに好かれますね。「今日はあの子は来ないの?もっと話したいんだけど」って(笑)。それは日本語力の問題ではなくて、コミュニケーション力なんです。コミュニケーション力について、彼らは日本人の若い人たちに比べ自然と身に付いています。日本人の場合はもともと表情が少なく、特に若い世代には上手にコミュニケーションがとれないといった子もいますが、ベトナムやネパールの子たちは凄いです。笑顔で口角がぐっと上がりますから。顔の筋肉自体が違うんです(笑)。

ですから、今後日本人の教育の評価と外国人のそれを一緒にしてしまうと、本当はもっとこの人は伸びる、活躍できるという人を失ってしまうのではないかと感じます。日本人と同じ評価基準で行ってしまうと、その人の良さが見えなくなってしまう恐れはあります。それに対して、教育する側も考えていかなければならないと思います。日本語が多少困難でも、コミュニケーション力、人間力が優れているなど、留学生の強みを活かせることも大切ですし、その結果、利用者さんにとって身近で安心できる人材であってほしいと考えています。

—— 留学生の生活サポートについてはどのようにされていますか。

太田： 今後は留学生が増えることを想定していますから、留学生サポート担当の職員を常駐させたいと思っています。現在は先生方と教務担当者が対応をしているほか、留学生向けの生活支援事業を行っている会社が近隣にあり、そこにはベトナムやミャンマー、ネパールのスタッフの方がいて母国語で相談することができるので、そういった場所の利用も勧めています。

—— 生活サポートという面で見ただけ、学生が苦勞していることはなんでしょう。

八子： やはり、経済的な面です。皆さんアルバイトをしないと生活することが難しいという現状があります。勉強とアルバイトを両立させることがかなり厳しい生徒もいます。

太田： その辺りは日々学生と面談をして指導はしています。生活費や学費はどうするか、という問題になりますから難しいところ

ではありますね。当校の留学生は15万円の
入学金免除が受けられます。全体の学費から
するとわずかですし、実習に行っている期間
はアルバイトができませんから、収入と時間
の確保が両立できないというのが実態ではな
いかと思います。

—— 経済面について、選考時にはどのよ
うに見ているのでしょうか。

太田： 入学前に2年間の見通しを立て、学
費と生活費をどのように捻出していくかを確
認しています。熱意があっても経済的な問題
があると両立することが難しくなります。学
力はあっても、経済面で難しいと判断され
る場合は入学をお断りする場合があります。

就職支援と今後の課題

—— 就職先となる施設側の反応というの
はいかがでしょう。

太田： 就職ということになると、利用者さ
んとの関係もありますが、スタッフとの関わり
もあります。実際には、受け入れる日本人
スタッフが外国人スタッフへの不安をもって
いる場合もあります。日本での経験値が高い
留学生でも抵抗があるという施設と、受入れ
る施設と二極化している状況です。本校の2
年生は、現時点で10人中8人は内定が出て
いるので心配はないのですが、これから大
勢の留学生を受入れるにあたって、出口の
保証は重要な課題になるかと思っています。

現在、求人票をいただいている施設に、留
学生の受け入れが可能かどうかについてもヒ
アリングをしています。回答としては、現段
階では態勢が整っていないから難しいという

ところが2/3ほど、残りの1/3は受け入れが
可能だという感触です。

—— これまでの反省点があればお聞かせ
ください。

太田： 1年目は手探りでしたから、特に日
本語のサポートで、不十分なところがあり、
そこは反省点ではあります。これまでもテキ
ストにふりがなをふるなどの工夫をしてきま
した。しかし、テキストやカリキュラムの内
容は、当然日本人向けに作られているので、
本当にこのままでいいのかという疑問もあり
ます。介護福祉の知識が全くない外国人が学
ぶ教材としては、これまでとは別のテキスト
やカリキュラムを開発していかないと、日本
人に追いついていくのは難しいのではないか
と思います。また、教える内容そのものにつ
いてもしっかり検討をしていかないと、本当
の意味で留学生の受入れ態勢ができたとは言
えないのではないかと、考えています。

—— 日本人と留学生を分けて授業を行う
場合もあるということでしょうか。

太田： 日本人と交わることで“気付き”
というのは当然あるわけですが、留学生にペ
ースを合わせてしまうわけにはいきませんの
で、どのようなクラス運営がよいのか？とい
った議論は当然あるかと思っています。例えば、
留学生だけのクラスを作るが、授業によって
は日本人と一緒に行うなどといった複合的な
方法も含めて、実態を見つつ検討していくこ
とが大切だと思っています。

—— どのような外国人介護福祉士を育て
たいとお考えですか。

八子： これからは、施設によっては技能実
習生の方も受入れるとうかがっています。そ

ういった様々な立場の外国人スタッフが共に働く現場で、当校出身者にはリーダーになっていただきたいなと思っています。専門学校では系統的に知識や技術を学んでいます。介護の理念を身につけた人材作りを目指してい

ますから、実践力を備えた留学生が実際に活躍する事が、現場の底上げにつながっていると思います。

——— ありがとうございます。御校のますますのご発展をお祈りしております。

介護福祉の勉強はどうか？

日本福祉教育専門学校 介護福祉学科 1年生

キム ドンジュンさん（韓国） 張 蔡韋（チョウサイイ）さん（中国）

●介護福祉学科を選んだ理由を教えてください。

キム： 私は一昨年韓国で大学を卒業後、来日して1年間日本語学校に通いました。その後帰国したのですが、日本で就職したいという思いが強くなり、専門学校に入って資格をとろうと思ったんです。介護福祉を専門に選んだのは、もともと韓国の大学での専攻が社会福祉だったことと、この分野は韓国より日本の方が進んでいると聞いていたからです。

張： 私も中国の大学を卒業後、来日して日本語学校に入学しました。進路ははっきり決めていなかったのですが、介護福祉を選んだのは、日本の発展したこの分野の知識、技術を学び、日本でしばらく働くことができれば、将来高齢化社会を迎える中国で老年寄りの役に立てると思ったからです。

●実際に日本福祉教育専門学校に入ってみていかがですか？

キム： まず、日本語学校と違い日本人学生と交流できるのが楽しいですね。日本文化も学べますし、同級生も先生方も優しくし



張さんとキムさん

てくれますから、学校生活はとても楽しいです。ただし勉強は難しいです。実技はあまり大変だとは思わないのですが、専門用語が多い理論では授業を追いかけるのが大変です。

●留学生向けの補講はどうか？

キム： 補講では授業の難しいところを中心に詳しく説明してもらえますから理解は進みます。でも留学生は日本語の文法や作文力のアップに時間をかけたほうがいいのではと思う時もあります。それから、補講では実習記録の添削をしてもらえますが、とても役に立っています。

張： 実習記録の添削では、私が文章を問

達えた理由も教えてもらえるので、とても勉強になります。次の記録を書く時はそれを参考に書くことができますから、徐々に自分の作文力が上がっているように感じます。専門用語は自分で調べて頭に入れて乗り越えられるかもしれませんが、文法や作文は日本語の先生が助けてくれないと、前に進むのは難しいですね。

●専門学校に入って良かったと感じることはなんですか？

張：勉強したいことが勉強できることです（笑）。また、クラスのいろいろな世代の方に接して、話し方や聞き方の勉強が出来る場所。実習が多いので、実際にお年寄りと接する機会が多く、就職してから役立つと感じています。

キム：私にとって一番嬉しいことは、就職について専門的なサポートをしてもらえるということです。

●これから日本で介護の勉強をしたいという留学生にアドバイスはありますか。

キム：専門学校で勉強したいのなら日本語の実力がすごく大事だと思います。日本語がないと授業を追いかけるのが大変になり、途中で勉強を諦めることになってしまうかもしれません。

張：私もキムさんと同じ意見です。また、介護の現場ではお年寄りと接する時間が多くなるわけですが、彼らからは日本の昔の話をされることがよくあります。そこで日本の歴史を知らない则会話ができず、お年寄りを怒らせたり悲しませてしまうことになります。ですから、日本で介護の仕事をを目指すなら、日本の歴史や文化にも興味を持って、学んで欲しいと思います。

●お二人ともがんばって、良い介護福祉士になってください。ありがとうございました。

<学校法人 敬心学園 日本福祉教育専門学校> <http://www.nippku.ac.jp>

介護福祉士・言語聴覚士・社会福祉士・精神保健福祉士・社会福祉主事・手話通訳士・音楽療法士の人材育成・資格取得ができる専門学校。1984年に創立以来、福祉と医療の現場に15,000名を超える卒業生を送り出している。

- 本校舎（大卒・実務経験者以上対象学科・就職センター・言語相談室）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-16-3
TEL：03-3205-1611

- 高田校舎（高等学校卒業以上対象学科・通信教育部）

〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-15
TEL：03-3982-2511



高田校舎

留学生の就活

東京外国人雇用サービスセンターに聞く 最近の留学生求人と在留許可

統括職業指導官 吉田 功二さん

日本での就職を希望する外国人留学生と、彼らを採用したいと考える企業は年々増加が続いているが、全ての留学生が全ての職種で働けるわけではない。そこには在留資格(就労ビザ)の取得というハードルが存在する。留学生の就活と在留許可の関係、就活成功の秘訣について東京外国人雇用サービスセンターの統括職業指導官である吉田功二さんにうかがった。



●在留許可 最近の変化

以前は日本の大学を卒業していないと在留許可が下りなかったのが、ここ10年位で、専門学校で専門士をとっている場合や日本の高等教育機関を卒業していなくても、海外の大学で学士を取得していれば許可が下りようになっています。そのあたりは間口が広がってきていると言えます。

●留学生募集の求人

特定の業種の求人が突出して多いということはありません。一時、中国からの観光客が増加した際、いわゆる爆買現象が起こっていた時は、その対応のために通訳を兼ねた中国語ネイティブ販売員の求人が大手の家電量販店などを中心に多かったわけですが、それも一昨年くらいから落ち着いてきています。

●文系、理系での求人、求職の割合

求職者は9:1ほどで文系が圧倒的に多いです。求人は理系も3割ほどありますが、大卒理系の方は大学や教授推薦という形で、直接企業側とやり取りされている方が多いようで、当センターに登録する方はそれほど多くはありません。

また、IT系の会社などには未経験でもOKというところもあるのですが、留学生の場合は、例えば学校でプログラミングを勉強していたといったように、関連技術を学んでいないと在留許可が下りません。なお大卒者に限っては、業務で“母国語を使う”という前提があれば、大学の専攻内容と職種に関係がなくても、在留許可は下りているようです。

●留学生を対象とした求人

日本の法律では、企業が求人をする際、性別や年齢、国籍で差別をすることはできませんから、留学生に限った採用という求人は公的機関である当センターには出ていません。ですから、全体の求人の中から留学生が応募できそうなものについて、予め当センタースタッフが企業に問い合わせ、留学生応募の確認がとれたものをファイリングしてご覧いただけるようにしています。その結果から見ますと、留学生が応募できる求人は、全体の半分くらいになるでしょうか。

●留学生の求人は増加しているか

優秀な人ならば国籍に関わりなく採用したい、という企業は増えてきています。ただし、

入社後は外国人であっても日本人同様に書類は日本語で作成してもらうという企業がほとんどですから、日常会話は問題なくとも、日本語レベルは漢字圏の方であれば少なくとも日本語能力試験N1、非漢字圏の方でもN2レベルは必要ということになります。

●どの言語の求人が多いか。ベトナム人の求人は増えたか

ベトナムに海外拠点を設ける企業は増えているので、数年間日本で勉強してもらい、将来ベトナムに行って現地法人の統括をしてみたいといった企業からの相談はありますが、目立って増えているということはありません。

母国語にこだわった求人の場合、最も多いのは圧倒的に中国語です。留学生の6割位が中国の方なので、求人数と求職者数の均衡はとれているのかなと思います。

そのほか、製造や物流系の企業を中心にタイ語やインドネシア語のネイティブをというご相談もたまにいただくのですが、そういった国の方の場合、登録者が少ないので、なかなか紹介できないという状況です。

●在留許可が下りない、または難しい仕事

基本的に単純労働と呼ばれる分野の仕事やドライバー職、調理師のようにものを作る仕事ですね。調理師の場合は条件があって、経験10年以上という要件を満たしていれば許可となりますが、留学生の場合そのような方はいないと思います。もちろん直接料理を作るのではなく、献立を考えたり、食材の輸出入に携わったりという仕事であれば可能性はあると思います。通訳・翻訳の場合も3年の経験が必要となっていますが、大卒者や専門学校で関連分野を学び専門士をとった者に限っては、経験なしでも可ということになってい

ます。

理・美容師については国家資格をとったとしても、在留資格がないので許可にならないと聞いております。このように人の体に直接触れるような仕事は今まで全て不可だったのですが、今年から「介護」の在留資格が出来るため、介護の分野に限っては可ということになりそうです。

また、これは雇用者側の問題ですが、同じ仕事内容の日本人社員と比べて、給与が少しでも低い場合も許可にならないようです。

ほかに、学生時代のアルバイトの就労時間が週28時間を超えていたといったことがなかった場合も許可にならないと聞いています。

●在留資格「介護」の新設による影響は

外国人介護士の募集ということでは今のところ新たな動きはないようです。すでに介護福祉士の資格をとっている方は経過措置ですぐに就労資格がとれるかと思いますが、なかなかそういう人材は少ないのではないのでしょうか。これから資格をとる方については2年間、専門学校などの養成機関で勉強してから就職という流れになりますから、今のところは学校側が留学生を募っている段階ではないかと思います。

●日本での就職を希望する留学生が学校を選ぶ際、気を付けたいこと

入管が在留許可について審査する際、学校の履修科目や成績証明書を提出させて、その人が職務内容と関連する勉強をしてきたかどうかを調べますので、ここがマッチングしないと、原則在留許可は下りないと思います。

専門学校の中には専門性がはっきりとした名称の学科を設けているところもあり、そういった学科を卒業した場合、就職が厳しくなるケースもあります。ですから、進学先の



学校を選ぶ際は自分が何をやりたいのかということをはっきり決めてから選ばないと、後でこの仕事がしたいと思っても、その仕事と勉強内容が関連していなければ、在留許可が下りないということになってしまいます。

現地のブローカーのようなところを通して来日している場合、そうした情報もないまま学校に行ってしまう方もいるようで、卒業しても就職が難しいというケースがあります。そういった実情を現地で周知できればと思うことがありますね。

●センターの利用方法

ここはハローワークの一機関で、外国人の方に特化している専門機関です。ですから外国人の方で就労可能な在留資格が取得可能な方であればどなたでも利用可能ですが、利用者の8割が外国人留学生ということで、卒業後の就職の相談、斡旋をメインにやっております。

また、センターには入国管理アドバイザーがおり、留学生や企業の方からの在留資格や職務内容といったことに関するアドバイスをっております。

まずは学生証、在留カード

を持って来ていただければ求職登録ができますので、その上で相談および紹介という流れになります。

求人検索の方法としては、先ほど申し上げたように、留学生応募可の確認がとれている企業のファイリングをご覧いただくことも可能ですし、あるいは全国にあるハローワークと同じ求人情報検索用パソコンを利用して、全ての求人の中から検索をしていただくことも可能です。例えばキーワードに「日本語能力検定」と入れていただくと、外国人が応募できる可能性が高い求人が表示されますので、そこから応募できる企業を選んでいただくことになります。

●就活をする留学生にアドバイス

留学生は就職活動を始めるのが遅いので、日本人に負けないくらいのスピードで始めていただきたいのが第一です。日本人が内定をもらっている頃にスタートするようでは、就職できたかもしれない人ができなくなってしまうわけですね。日本人の大学生は3年生の12月頃から企業研究をしたり、Webなどから企業にエントリーしたりしているようです。あらゆる機会、メディアを使って応募できる所にはどんどん応募していただきたいと思います。

留学生の方は言語能力が高いと思いますので、日本人学生と同じ頃にスタートすれば、就職できる可能性は高まると思っています。

＜東京外国人雇用サービスセンター＞

〒163-0721 東京都新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 21 階

TEL : 03-5339-8625 FAX : 03-5339-8654

<http://tokyo-foreigner.jsite.mhlw.go.jp/home.html>

(開庁時間) 午前 10 時 00 分～午後 6 時 00 分

奨学団体に聞く

公益財団法人 東華教育文化交流財団

優れた留学生たちが安心して勉学に励めるよう、経済面のみならず独自のコミュニケーションにより、時に学生の精神面をも支える奨学団体。その魅力を紹介する本コーナー。今回は日中両国で学ぶ双方の学生を、およそ30年に渡り支えて続けてきた東華教育文化交流財団にお邪魔し、理事長の江洋龍さんと 常務理事の張瓏庭さんにお話をうかがいました。

＜概略＞ 1988年8月、東京華僑総会から基本金の提供を受け設立。日中両国間の相互理解と友好活動増進に寄与することを目的に、留学生交流の推進を図るための奨学援助、および日中両国の教育、学術、文化交流事業に対する助成を行っている。

〒104-0061 東京都中央区銀座八丁目2番12号 東京華僑会館5階
TEL 03-3571-7613 FAX 03-3572-5943
E-mail info@donghua.or.jp

＜奨学金プログラム＞

①私費中国人留学生奨学金

対象：日本の大学学部3年生以上もしくは大学院に在（入）学する私費中国人留学生（台湾、香港、マカオ出身者を含む。）で、留学生生活上経済的援助を必要とすると認められ、学力優秀で身体健康な者。

募集人数：25人程度

奨学金：月額10万円（月額2万円を超える他の奨学金との併給不可）

支給期間：1年間（審査の上、通算2年を越えない範囲で継続支給可）

募集時期：11月

②私費訪中留学生奨学金

対象：中国（台湾、香港、マカオ出身者を含む。）の大学本科3年生以上又は大学院（研究生院）に在（入）学する私費訪中留学生で、留学生生活上経済的援助を必要とすると認められ、学力優秀で身体健康な者。

募集人数：20人程度

奨学金：月額3万円（他の奨学金との併給不可）

支給期間：1年間（審査の上、通算2年を越えない範囲で継続支給可）

募集時期：6月

＜助成金プログラム＞

日中間の教育・学術・文化交流を促進する事業への助成。募集時期：1月

財団の設立と奨学金事業の開始

—— 財団設立の経緯をお聞かせください。

張： きっかけは、偽滿州国時代の高官で趙という人が、その妻の名義で日本にたくさんの不動産や貴金属などの財産を隠し持っているという事実を、1964年に東京華僑総会が知ったことに始まります。本来これらの財産は全て中国政府に没収されるわけですが、外国にある財産については簡単に処理することができませんでした。そこで、当時、東京華僑総会の副会長であった陳煥旺（のち当財団初代理事長）と呉普文の両氏が中国政府から委任を受けて、この財産を回収するための手続きを始めたわけです。土地は不法占拠の問題なども絡み、全ての処理が終わるまで最終的に30年以上かかったわけですが、この財産を有効に利用するためにはどのような方法があるのかということを考えた結果、日中の国交正常化により増加するであろう中国と日本の留学生のために使おうということになりました。1983年に中曽根内閣は2000年までに留学生を10万人受け入れるという政策を打ち出しており、留学生に奨学金を支給する特定公益増進法人に対しては、全面的に免税するという政策がとられていたことも財団を設立する動機付けとなりました。

—— 名称が“中華”ではなくて“東華”なのですね。

張： 当初は「“中華”教育財団」にしようという話だったのですが、当時の文部省の担当者は、中華思想の“中華”だということで認めてくれなかったんです。それで、東京華

僑総会から二文字をとって、“東華”となったわけです。

江： 日本にいる中国人が作った財団ですから、他の団体に比べると特殊だと思います。あの当時、在日華僑が設立した社団法人、財団法人は日本の県人会のような「同郷会」というものしかありませんでした。こうした理由で設立された財団というのは初めてのケースでした。

—— 現在の奨学金事業について教えてください。

張： 奨学金事業としては中国から日本に留学している中国人学生に支給する私費中国人留学生奨学金と、日本から中国に行く学生に支給する私費訪中留学生奨学金の二種類があります。またその他に、華文教育奨学金といって、在日の華僑華人の方が中国語を勉強し到北京の華文学院や広州の暨南大学、福建の華僑大学に留学する為の奨学金があります。

—— それぞれの支給額、支給期間について教えてください。

張： 中国人留学生奨学金は財団設立時月額8万円でスタートしましたが、現在は10万円になっています。訪中留学生奨学金については当初月額2万円からスタートして現在は3万円です。また華文教育奨学金は2万円です。支給期間はそれぞれ1年間ですが、本人が希望して審査に通ればもう1年間継続受給ができます。

私費中国人留学生奨学金

—— 中国人留学生奨学金は、最初何名から始めましたか。

江： 5、6名だったでしょうか。

張： 1988年の8月末に設立して9月からスタートしようということになったのですが、どうやって奨学生を探せばいいのかわかりませんでした。それで、駐日中国大使館教育処に相談したところ、数名の学生を紹介してもらい、彼らが第1期生となりました。

—— 応募は学部3年生以上ということですが、既に日本で学んでいる学生が対象ということでしょうか。

江： 大多数が日本国内からの応募ですが、応募時点では中国にいて、私たちの審査に合格してから来日して来るという方も最近は増えています。

張： 中国からの来日前の応募者の場合、日本に住んでいませんから簡単には会えないということもあり、採用に当たって若干の不安を感じる部分もあります。もっとも日本にいる学生についても面接はしていません。

江： それから、私どもの奨学生には大学院生が多いのですが、大学院というのは4月からとは限りません。うちは10月入学の場合でも4月から支給ということで実施していますから、支給開始時期が学期とずれる人もけっこう増えています。ですから支給途中で卒業しましたと言って帰国する人もいます。

—— 学部の方の採用は少ないということですか。

江： 学部の方の応募も毎年数十名あるのですが、採用となるのは2名ぐらいですね。

張： 採用時に考慮するポイントとして、学



江 洋龍さん

部生については毎年必ず2～3名は入れるようにしています。

江： その他私どもの奨学生募集の特徴に、応募時の年齢制限がないということがあります。長期間苦勞して、その分野で努力を積み重ねてこられた方など、書類を見て感心させられる方もいますので、そういった方へはチャンスを与えたいと考えています。もっとも以前50歳くらいの人を採用したことがあり、その時は選考審査委員の先生方から大丈夫か？という声もありました。若い人と違い、卒業後にその方がどんな道を歩むのかということについて選考審査委員会で議論したこともあります。

—— 応募者、採用者は何名くらいになるのでしょうか。

張： 応募者は最初の頃は400名以上いましたが、現在はだいたい百数十名、今年度の応募者は132名でした。

江： 当財団では前年度に採用された人には学習成果を報告してもらい、それを選考審査委員会にかけてしっかり勉学に励んでいると



張 瓏庭さん

なると、もう1年継続支給するということになります。もちろん本人の希望があれば、ですが。ですから採用人数は毎年25名ほどですが、新規採用は10名少々となります。

—— 日本の中国人留学生の数を考えると現在の応募者数は少ないようにも感じますが。

張： 最近はみなさん豊かになってきたのか、どうしても奨学金が必要という人は少なくなってきたのかも知れません。

江： 最近の申請書を見ると、まず8割くらいの方が、金額の大小はあっても仕送りを受けています。昔、15年程前はほとんどなかったことです。

—— 併給についてはいかがでしょう。

張： 併給について、月額2万円以上のものは認めていません。

江： 今はほとんどの方が他の奨学金と併願していますから、私どもより高い支給額のところに採用されると当然そちらに行ってしまうと思います。ですから以前は補欠はあまりとらなかったのですが、最近はそうした傾向に合わ

せて少し補欠を多めにとり、対応できるようにしています。

張： 補欠は今年6人決めましたが、最終的に5人目までが採用となりました。優秀な人はあちこちの奨学生の審査に合格するのだと思います。

—— アルバイトについてはいかがですか。

張： アルバイトについては禁止していません。今の時給は1000円以下と思いますが、バブルの頃は1000円以上、1200円ももらっている人も

いましたから、そういう奨学生は裕福な顔をしていました(笑)。その後段々景気が下がってきましたが、私たちの奨学金は金銭的には、アルバイトの補助みたいなものかなと思って

私費訪中留学生奨学金

—— では次に訪中留学生奨学金について、応募者、採用者数について教えてください。

江： 訪中日本人学生の応募者は比較的少なく、多くても30名余りです。採用は20名ほどなので、基本的に人物に問題がなければ採用ということが多いですね。留学先は大陸だけでなく、香港や台湾に行く場合でも支給されます。

張： 訪中留学生奨学金の支給額については、財団設立当時の日本と中国の物価比が4：1だったので、8万円に対して2万円（現在3万円）ということになったのですが、今は中国の物価が上がり、3万円では少し少ないかなという気もしています。



奨学生懇親会の様子 (2017年4月)

——— こちらも応募資格は学部3年以上と
のことですが、実際に学部の途中で
行かれる方もいるのでしょうか。

張： 応募者の多くは大学院生ですが、学部
の方で1年間大学を休学して行くという人も
たまにいます。

江： 中国の大学と提携して単位交換できる
ようにしている日本の大学も多いので、そう
いった制度を利用して留学する方はいます
ね。留学先としては台湾の人气が高く、年度
によっては大陸より台湾に行かれる方のほう
が多いということもあります。

選考方法と親睦会

——— 選考はどのように行っているの
でしょう。

江： 中国人留学生奨学金と訪中留学生奨学
金については選考審査委員会があり、7名の
選考審査委員が選考に当たります。ただし、
例えば今年の中国人留学生奨学金への応募者
は132名ですが、全員の資料をいきなり選考
審査委員に持って行くと、大変な作業になり
ますので、まず事務局がガイドラインに沿っ

て60名台くらいまで絞る作業を行っていま
す。そして絞られた応募者の書類のコピーを
選考審査委員会が開かれる1か月ほど前に先
生方に送って見ていただいています。そこま
で絞ると成績という部分ではあまり差が出ま
せんから、先生方がまず重視するのは本人の
研究内容に関する熱意といった部分と論文を
どのくらい出しているか、どの程度の深さま
で研究が進んでいるかといったこと。また、
指導教官の推薦状から、その学生がどの程度
真剣に研究に取り組んでいるのかといったこ
とを読み取るようです。選考審査委員会当日
はまずそれぞれの先生のご専門により文系と
理系に分かれて、丸一日かけて討論をして候
補者のランク付けをします。そして最後に全
体会議をやって補欠を含めて決定します。最
終選考ではいくつか考慮事項があります。例
えば大陸以外の台湾、香港、マカオ出身であ
るとか、少数民族であるといったことなども
考慮して、支給者を決定します。

張： 少数民族では新疆ウイグルと内蒙古の
方が多いですね。第1期生の中にもウイグル
の女性がいました。医師の方でしたが、その
学生は帰国して大学の先生になったようです。

江： ウイグルの方には農業や医学を専攻されている方が多いですね。現地で民族学院などを出て医師や農業研究者になり、長いこと学校で教えてたりして、それから留学という人はけっこういます。そういう意味でも苦勞をしている方もいますね。

——では親睦会ではどのようなことを行っていますか。

張： 親睦会は年3回、4月、10月、1月に開催しています。参加については首都圏の学生は3回とも、事務局から100キロを目安にして、それ以上遠方の学生については国慶節である10月の1回だけを参加義務としています。うちは奨学金の支給を3か月ごとに年4回行っているのですが、首都圏の学生の場合、3回はこの親睦会の時に手渡しをして、残りの1回、7月のみ銀行振込にしています。

江： 設立当初はその年の1回目の親睦会で、卒業したら中国に帰りなさいという話をしていたのですが、今は時代も変わってグローバルになり、中国人が世界で活躍するようになりましたから、そうも言ってはいただけないと感じています。そこで私は今2つの希望を親睦会で話しています。一つは、当時5万人という数少ない在日華僑がこういう奨学金団体を作って、留学生のみなさんのために中国と日本の友好を願って、この事業をやっているんだということを。もう一つは、卒業後活躍する場合は必ずしも中国と日本とは限らないけれど、日本で学んだということを忘れずに、何かあった時に、両国のために役立つんだということを念頭に置いておいて欲しいということを、毎回私の希望として話しています。

張： 私も当初は留学生は卒業したらすぐ中

国に帰るべきだと考えていましたが、その考えが変わったのは、1人のものすごく優秀な学生と出会ってからです。彼は福建省の出身で、本当に見るからに素朴な田舎の青年という感じでしたが、北京大学に15、16歳で飛び級で入り、修士を20歳くらいで終わったという秀才でした。そしてその後、中国には研究設備がないということで、来日後、茨城大学に所属して筑波大学で研究を行ったんです。彼は日本に留学する際、あなたが帰国する頃には設備も揃っているからと北京大学から言われていたそうですが、実際に帰った時にはまだ受け入れ体制は整っておらず、研究資材も揃っていなかった。で、どうしようかと考えて、今度はアメリカに行ったわけです。それを聞いた時に、これは必ずすぐ中国へ帰れとは言えないなと思いました。

——奨学生との繋がりという部分はいかがですか。

江： 奨学生が卒業後どこで何をしているのかということを財団として掌握する必要があるという話は理事会でも出ています。これはなかなか難しいことですが、できるだけ把握したいとは思っています。最近はやがけていてメールで聞いたりしています。

張： 卒業後のことについては、個人的にはいいんじゃないかなと思っているんです。帰巢本能ではありませんが、みんなそのうち必ず国へ戻るよと。中国の場合は儒教精神といえますか、親族との関係が非常に強いですから、やはりいずれは中国で何かの役に立ってくれる、貢献してくれればそれでいいんじゃないかなと。ただしこれは私個人の意見ですが…。そうもいかないようです（笑）。

助成金事業と財団のこれから

—— 次に助成金事業について伺います。

張： 基本的には、年間800万円の予算を確保していますが、日中国交正常化45周年などには、予算を増やすこともあります。財団の設立以来、横浜の山手中華学校と神戸の中華同文学校には継続して助成を行っています。昨年度で言えば、前者には中国語教師の招聘について、後者には民族音楽教師の招聘について助成を行いました。

中国の大学の教授クラスの先生が日本で行われる国際会議や学術会議に参加する場合などについても助成を行っています。

江： その他、昨年度はちぎり絵の展覧会やシンポジウムなど7つの日中交流事業に対して助成を行いました。過去には、コンサートや人形劇への助成を行ったこともあります。

—— 財団の方針とこれからについてはどのようにお考えですか。

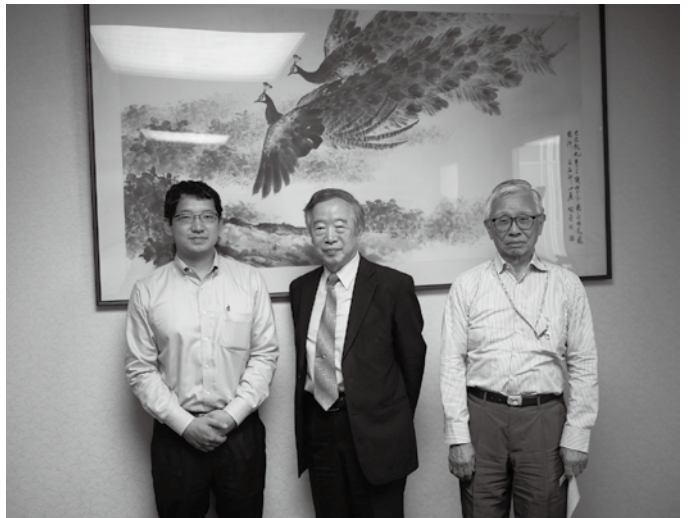
江： 私は次世代である若い人の日中相互理解のための交流が重要だと思っています。当財団もそういった青年層の交流に関する助成の申請が増えており、それは今後もぜひ応援したい。金額は少なくとも出来るだけ日本と中国の友好往来と交流を志向する多くの団体や組織に協力していきたいと考えています。また、財団独自の事業としても、そういった面で何かやれればと

考えています。

張： 現在は、資金の運用が大変難しい状況にあります。イザという時にも、最低半年間は支給を継続できるよう対策をとってあります。何があっても、一生懸命学んでいる奨学生たちを路頭に迷わせる訳にはいかないという気持ちを常に持って事業に取り組んでいます。

江： 中国や在日華僑に友好的で理解のある日本の先生方のいろいろなご協力があったからこそ、この財団を設立することができたと思います。もしこうした先生方の協力がなかったら、財団はできなかったかもしれません。例えば東京大学の田村三郎先生や早稲田大学の安藤彦太郎先生、弁護士の小川休衛先生などには、大変なご尽力をいただきました。ですから今日あるのはそういう先生方のおかげだということで、心から感謝しております。

—— 御財団のますますのご発展を期待しております。ありがとうございました。



財団を支えるお三方。(左から)事務局次長 呉健一さん、江洋龍 理事長、張瓏庭 常務理事

アニメがくれた幸せな日本留学

ブンインヨン サリンティップ (テーン)

(Ms. Salintip BOONYINGYONG) ~タイ

東洋大学大学院 国際地域学研究科 (修士課程) 修了



日本アニメの衝撃

私が日本に目覚めるきっかけとなったのは、中学生の頃、友達に紹介してもらったジャニーズ (アイドルグループ) とアニメです。特にアニメにはどんどんのめり込んで行きました。私はテレビで日本の子供向けアニメを見て育ちましたが、DVDで見る大人向けの作品には、それまで感じたことのない新鮮な感動を覚えたんですね。それから次々と作品を見るようになり、日本のアニメってどれも面白くて素晴らしい。私の中でそんな図式が完成しました。

日本アニメの特徴はその魅力的なキャラクターデザインやストーリーはもちろん、テーマ性がとても深いということです。特に衝撃を受けた作品は「機動戦士ガンダムSEED」で、作品にはロボット

ものの特有のカッコ良さや痛快さはもちろん、人間愛、戦争の醜さ残酷さなど、様々なものが凝縮されていて、日本アニメの奥深さと素晴らしさに



すっかり魅了されてしまったという感じです。

その後、大学では日本語と経営学の両方を専門に学べる泰日工業大学 (TNI) の日本

語・経営学科に進学しました。TNIは元日本留学生が設立した大学で、私が入学する時はまだ2年目の新しい大学でしたが、日本のいろいろな教育機関と姉妹校提携を結んでいて、それらの学校への交換留学制度も充実していました。私もその制度を利用して、2年生になる前の夏休みには青森へ、4年生になる前の夏休みには東京のABK日本語コースに短期留学をしたんです。

大学を卒業したら日本に留学したいと思ったのはこの時です。私は普通の長期学生が学ぶクラスに入ったのですが、タイ人は私を含めて二人だけだったため、クラスメートとは日本語でコミュニケーションをするほかなく、ずいぶん日本語力が伸びたと思います。同時に様々な国の友達ができて、とても楽しく充実した1



大学院の仲間と



四年間お世話になった富士前寮の高橋ママと

か月でした。ここで学ばざらと（日本語能力試験の）N1にも合格できる。ぜったい留学しようって思ったんです。

タイの海賊版事情

日本語学校での1年間は、予想を超える素晴らしい日々でした。希望通りN1に合格できたのはもちろん、各国から来たクラスメートたちと親交を深め、一生涯付き合っていくであろう、親友と呼べる人たちとの出会いもありました。

そして卒業後は父の希望もあり、大学院（東洋大学大学院 国際地域学研究科）に進学、タイにおける日本製アニメーションの海賊版とライセンスビジネスに関することをテーマに研究をはじめたんです。

タイでは日本製アニメやマンガの人気の高い一方、それらのDVDやVCDの海賊版が広く出回っています。それ

らはデパートの中や露店で販売されているだけでなく、インターネット上に違法アップロードされ、多くのファンがそれをダウンロードして鑑賞するという状況になっています。

タイ人は知的財産に関する知識をあまり持っていませんし、政府も著作権保護に積極的に取り組んでいないため、警察の取り締まりも緩く、海賊版を買った者が罪の意識を持ちにくいという状況になっています。

また、海賊版氾濫の問題は、日本のアニメ制作会社からライセンスを得て正規版を販売しているライセンス商社にもあります。タイで販売されているこれらのDVDやVCDの品質は良いとは言えません。製造者がローコストにばかり目を向けるあまり、品質の低下や発売時期の遅れが発生しているんです。その結果、良

質な画質の作品を早く手に入りたいアニメファンたちは、タイの正規版に期待することを諦め、日本で販売されている高画質の製品を輸入して手に入れるようになり、国内の正規版はさらに売れなくなっていく、海賊版が氾濫するという悪循環が生まれています。

ですから、まず政府がやらなければならないのは、タイの消費者に知的財産の知識と道義の意識を植えること。それだけでも違法行為はかなり減少すると思います。さらに、著作権法を厳しくして警察が積極的に取り締まる必要があります。

ネット上での対策としては、ライセンス商社がお互いに協力し合い、正規版アニメのサイトやアプリを一つに統合し、品質の改善を行うと同時に消費者が正規版を買いたいと思えるような、魅力的なプロモーション活動を行う必要がある



京都一人旅。刀剣乱舞スタンプラリーで訪れた藤森神社 日本語学校（ABK カレッジ）の親友たちと

のではと思います。消費者、政府、ライセンス商社が一緒になり、解決に向かって歩めば、タイのライセンスビジネスはさらに良い方向に発展できるのではないかと考えています。

日本語上達の秘訣は 日本に関わる趣味をもつこと

日本語学校、大学院、学生寮… そこで様々な国の人たちと出会い、多くの友人を得ながら楽しく学ぶことが出来ました。大学院では、英語しか話さない人たちと積極的にコミュニケーションをし、英語力も上がったと思います。

もちろん学校以外でも、多くのアニメ、ゲームファンの人たちと交流しました。例えば私は東京・池袋の公園で自然発生的に行われている、アニメやゲーム関連グッズの交換会に毎週末出かけています。

そこではお互い不要な物、欲しい物を交換し合うのですが、同時に好きな作品やキャラクターについて話が盛り上がったり、仲良くなってTwitterのアカウントを交換したりしています。

そんな日々が身近にある日本留学は、私にとって趣味も勉強も全てを満足させてくれるものでした。

だから、日本語を上達させたい留学生へのアドバイスは、なんでもいいので日本に関わるものに興味を持ち、それを趣味にして楽しみながら日本語を学んで欲しいと言うことです。私の場合、それがアニメやマンガだったわけで、今の会話の意味を知りたい、彼はなんと叫んだのか聞き取りたい…。そんな欲求が私の日本語力をここまで上げてくれたのだと思います。

もしアニメに関心が無ければ、ドラマでも小説でもアイ

ドルでも、何か日本に関わる好きなものを見つけて、それを趣味として楽しみながら日本語を吸収する。もちろん日本語そのものが好き！ならそれが一番ですけど（笑）

とにかく、日本語を学んで使う楽しさを見つけてください。私も、もしアニメが好きでなかったら、ただ知識や学位を得るためだけの留学だったら、ここまで楽しく学んで来られなかったと思います。

私はもうすぐ家庭の事情でタイに帰ります。それがすごく辛いほど日本での生活が大好きでした。

でもただ一つ、たまにタイが恋しくなる時がありました。それはタイ料理です。東京でたくさんのタイ・レストランに行きましたが、どこもタイの味じゃない。タイ料理はタイが一番いい。これだけはタイが最高です（笑）。

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ&先生によるリレーエッセイ

泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

②④ 期待の新人

池田 隆

2017年は泰日工業大学開学10周年にあたる。他の部署では、卒業生が大学に教員または職員として採用されて活躍している場面を見かけるようになった。しかし、日本語学科では、卒業生が教師になるということは皆無であった。しかし、今年度、ついに、卒業生が教師として採用されることになった。スペンナパー・ブンブーム先生と、ナットスパー・スィリマーウィセート先生の2人である。

スペンナパー先生は、日本語・経営学科をこの3月に卒業したばかりである。彼女が学んだ「日本語・経営学」とは、経営学と日本語を学ぶコースで、日本語の内容は、他の学科のカリキュラムとは異なり、より高度なレベルの日本語を学習するコースとなっている。

彼女に影響を与えたのは、彼女の父方の叔母さんだという。叔母さんがタイの東北地方で高校の英語教師をしており、優秀な教師として表彰されたため、とても尊敬している。そして、いつかそのようになりたいと思い、教師を目指すことにした。彼女は高校卒業後、興味のある日本語を学ぶた



スペンナパー先生

めに、1年間東海大学に留学した。東海大学には、いところが留学していたため、何の心配もなく、勉強に取り組むことができた。そのため、会話能力は高く、TNI卒業後即採用となった。

ナットスパー先生も、日本語・経営学科を卒業したばかりである。彼女は在学中に滋賀大学に1年留学している。

彼女が教師になりたいと考えた理由は、「社会貢献したい」という考えからである。具体的には、日本企業での研修の経験や日本留学の経験を、学生に伝えていくことによって、タイという国の発展に貢献したいと考えている。

若いがいしっかりした考えを持っている。彼女の家は、大学から歩いて10分ほどの所で、レストランを経営している。日ごろ、家族や従業員と接する中で、ビジネスとは何か、人材育成とはどのようにすべきかということを感じている。そこから導き出された答えが教師として社会貢献したいということである。

彼女が目指す教育をするためには、まず、彼女自身がより多くの知識や経験を持っていることが前提となる。現状に満足してはいけない。そのような理由で、現在、滋賀大学への再度の留学を目指している。彼女は毎日、滋賀大学の先生から読むようにと勧められた経済学の本を少しずつ翻訳しながら読んでいる。日本語で書かれた分厚い本である。それを、暇があれば、ずっと読んでいる。斜め後の筆者の席から見える彼女は、小さいがとても頼もしい後姿である。

今回、卒業生が教師に採用された意義は非常に大きい。

彼女たちは学生にとっては、少し前まで同じ制服を着ていた先輩である。学生のことを他の教師よりもはるかによく理解している。学生の抱える悩みや不安、問題についてもきめ細かい対応が期待できる。

そして、学生の卒業後の目標の一つとし



ナットスパー先生

て、泰日工業大学の教師になるという選択肢が具体的に示されたということも見逃せない。入学後、自分の適性について悩む学生がいる。勉強をしていくうちに、自分の専門よりも、日本語を磨いて、将来は日本語で仕事をしたいと考える学生が出てくる。日本語の教師になるということも当然考えるが、主専攻ではないため、積極的に目指す勇氣を持つことができず、儚い夢と消えてしまいがちであった。しかし、これからは、2人の先輩が実際に教師として働いている姿を見ることで、そのような学生も、明確な目標を持って、教師への道を目指せることになる。教師側としても、能力や人間性を十分に確認できるメリットがある。

彼女たちは「期待の新人」という言葉以上の期待の新人である。次世代を担う若い人材を得て、泰日工業大学の日本語教育は、更に加速していく。

池田隆（いけだたかし）：泰日工業大学（TNI）教養学部日本語講師。2003年青年海外協力隊員として、タイ国ウボンラチャタニ大学に赴任。その後、タイ南部タクシン大学を経て、現職。



(公財) アジア学生文化協会創立 60 周年記念行事

当協会は、本年9月18日、創立60周年を迎えます。これもひとえに会員の皆様はじめ内外の関係者の長年にわたるご支援の賜と感謝申し上げます。60周年を記念し、下記行事を予定しております。関係者の皆様のご協力を得て内容の充実したものにしたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

9月15日(金)

<記念シンポジウム>

(公財) アジア学生文化協会創立 60 周年記念シンポジウム

『アジアの人材育成と日本留学の課題』

～当財団設立の60年前と現在では、日本もアジアの状況も様変わりし、留学の目的も変遷しています。これからどこに向かうのか、各地で活躍する元留学生に多角的視点から語っていただきます。

●時間 14:00～16:30

●場所 文京シビックセンター 南2階 小ホール

<記念式典・懇親会>

●時間 17:00～19:00

●場所 文京シビックセンター 南26階 スカイホール

9月17日(日)

<講演会>

『在ドイツ元 ABK 在館生の話』～ヨーロッパから見える日本、アジア～

by ヘン・フ・チョン

●時間 14:00～16:00

●場所 アジア文化会館 地下101室

上記お問合せ・お申込先：(公財) アジア学生文化協会 (受付) URL <http://www.abk.or.jp>
TEL: 03-3946-4121 FAX: 03-3946-7599 e-mail asca60com@abk.or.jp

9月30日(土)

<日本語セミナー>

(公財) アジア学生文化協会 60 周年記念 ABK 日本語教育セミナー

『日本語教師の学びの楽しみ・楽しみの学び』

●講師 荒川洋平 (東京外国語大学国際日本学研究院教授)

●時間 13:00～15:30 *懇親会 15:30～16:30

●場所 (一財) 海外産業人材育成協会 (AOTS) 東京研修センター

上記お問合せ・お申込先：スリーエーネットワーク講座係
FAX: 03-5275-2729 e-mail kouza@3anet.co.jp

ABK is My Home

最近の出来事 & 懐かしの来館者

◆ 留学生が神輿を体験

6月3日（土）、荒川区東共栄町会の天王祭が開催され、やまぶき寮生を中心とした ABK の学生が 30 名以上参加しました。はっぴを着た学生達は地域のみなさんと力を合わせて神輿をかつぎ、「わっしょい」の掛け声と共に元気よく町内をまわり地域行事を盛り上げました。



地域のみなさんと記念撮影

◆ 元マレーシア人在館生同窓会

6月16日（金）、マレーシアのベ（馬清雲；1991年～フロア生）さんご夫妻の来日、マカオからチャウ（周斯敏 1992～フロア生）さんも来日して、ABK 訪問。職員、当時の夜間受け付けの東京外語大生、東京在住元フロア生も集まり、歓迎・同窓会開催。



※ フロア生：アジア文化会館（ABK）の特別枠入館寮生



奨学金情報

※ 奨学金情報は Japan Study Support のホームページよりご覧いただけます (<http://www.jpss.jp/ja/>)

公益財団法人佐藤陽国際奨学財団

私費留学奨学生

募集要項 (秋募集)

●対象：①バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、モルディブ、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナムから来日し、文部科学省所轄の大学の学部または大学院に在籍する当該国の国籍を有する私費留学者 ②国際理解と親善に関心をもち、財団の交流会に必ず出席できる者 ③他の奨学支援団体等から奨学金に類する金品を受給していないもの ④在留資格「留学：college student」を有する者 ⑤日本で就業している親がいない者 ⑥「博士」の学位を取得していない者 ⑦課程の修学期間が奨学金支給開始時期より1年以上ある者 ⑧勉学・研究に支障のない日本語能力を有する者 ⑨当財団の奨学生を終了後、同窓生として当財団の交流活動に積極的に協力できる者 ⑩学部学生は、在籍している日本の大学及び高等専門学校等の成績証明

書が提出可能な者

●支給期間：①2017年10月から2019年9月までの2年間 ②2018年4月から2020年3月までの2年間 (ただし、採用時の課程修了までの標準修業年限とする。)

●給付金額：(学部学生)月額15万円、(大学院生)月額18万円 (他に学会出席補助金制度あり)

●募集人数：約20名

●応募方法：在籍する大学の留学生課を窓口として、応募書類を募集期間内に留学生課から当財団宛に郵送にて提出すること。

●応募締切：8月23日(水)消印有効 ※ただし、2017年10月及び2018年4月入学の新編入生(学部生)及び新入生(大学院生)に限り9月13日(水)まで受け付けます。

●実施団体・問合せ先：

〒153-0064 東京都目黒区下目黒1-7-1
公益財団法人 佐藤陽国際奨学財団事務局

☎ 03-5487-2775

URL <http://www.sisf.or.jp>

イベント情報

■ 2017年第2回 日本語能力試験 (JLPT)

日本語を母国語としない人を対象として日本語の能力を測定し、認定する試験です。受験資格、進学、就職、昇級等幅広く社会で活用されています。

申込受付期間●8月31日(木)～9月29日(金)

試験会場●全国47都道府県

試験レベル●N1、N2、N3、N4、N5の5レベル

申込み方法●

①インターネット申込み→ <http://info.jees-jlpt.jp/>

②郵送による申込み→ 受験案内を全国主要書店で購入してください(1部500円)

受験料●5,500円

問合せ先●日本語能力試験受付センター Tel: 03-6686-2974

主催●公益財団法人 日本国際教育支援協会

MEMBERS

〈会費とご寄附の報告〉

2017年4月

正会員

(2口)

孟令樺 / 計宇生	渋谷区
本村 博志	豊島区
清水 勇治 / 泰代	高崎市

(1口)

染谷 誠	越谷市
数下 勝	千葉市
奥山 義夫	町田市
高橋 作太郎	静岡市
伊藤 源之	東久留米市
熊沢 敏一	松戸市
酒井 杏郎	渋谷区
大江 孝子	練馬区

小野寺 武夫 国分寺市
愛知淑徳大学国際交流センター
長久手市

ご寄附

松浦 秀嗣	国分寺市
奥山 義夫	町田市
長澤 正夫	久喜市
中島 源吾	中郡
山口 憲明	日野市
高橋 作太郎	静岡市
酒井 杏郎	渋谷区
SHITTHA SANFUENG FONG	
BANGKOK	

2017年5月

特別会員

(1口)
来山 文泰 文京区

正会員

(1口)

菊地 絵里奈	葛飾区
土居 征夫	世田谷区
横田 雅弘	千代田区
東京都太田記念館	杉並区
田中 武雄 / 多美子	水戸市
河内山 康子	千葉市
清水 国夫	中郡
出澤 正徳	鶴ヶ島市
木村 博 / 劉 彩品	川越市

ご寄附

富永 昭太郎 町田市

<新規入会・5月>

正会員(1口)

堀口 元生 神戸市

皆様の暖かい御支援に
感謝申し上げます

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人です。財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：公益財団法人アジア学生文化協会
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設 立：1957年（昭和32年）9月18日
故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◇会費（年額）◇

正会員 1口 1万円
賛助会員 1口 5万円
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（十税）でお送りしています。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税をご負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

おかげさまで、当財団は2014年4月1日に公益財団法人に移行しました。これまでご支援いただきました皆様には大変ご迷惑をおかけしていましたが、これにより会費並びに寄附金は税制上の優遇措置の対象となります。今後とも、皆様のご支援の下、これまでと同様留学生宿舍の運営、留学生への情報提供、同窓会活動等の活動を通じ、アジアの青年の育成と友好親善のために微力を尽くす所存です。引き続き皆様のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

後 記

「アジアの友」の発刊が大幅に遅れてしまいましたことお詫び申し上げます。取材ベースで自転車操業が続いておりますが、叱責されねばならぬことと自戒しています。

本年9月18日に当財団は満60歳を迎えます。これを記念し、9月15日に創立60周年記念シンポジウムを開催いたします。近年、世は内外めまぐるしく変化し先の見えにくい時代に突入しています。当財団設立の頃の60年前の留学生と今の留学生とはその数も目的も大きく変化しています。シンポジウムでは、ABK第1期生（1960年）で、尖閣列島の問題を端緒に関係が悪化している日中関係の改善を、未来を担う若者に託そうと、中国の5大学に日中の学生の共同学生寮建設のための資金を寄付して実現し、また、『アジア次世代指導者奨学金プログラム』を立ち上げ、若い優れた学生の育成にあたる香港の曹其鏞さんに基調講演をお願い致します。ぜひご参加ください。

留学生総数が過去最高を記録した、前号でご報告の2016年度外国人留学生在籍状況調査結果の数字で気になるのは、日本語教育機関並びに専門学校の増加が目立って大きいこと。その増加要因について今号では分析し、また具体的な専門学校での取材を行った報告を掲載しています。（F）

アジアの友 2017年6・7月号

2017年7月20日発行（通刊第527号）

年間購読（送料共）3,000円＋税 1部 500円＋税

発行人 小木曾 友
編集 アジアの友編集部
発行所 公益財団法人 アジア学生文化協会
東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)
電話番号：03-3946-4121 ファクシミリ：03-3946-7599
振替口座：00150-0-56754 E-mail: tomo@abk.or.jp
ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)
published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)
2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN
☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599
Email: tomo@abk.or.jp
Home Page: http://www.abk.or.jp/

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話または巻末の振替用紙にてお願いいたします。



対話と協力 アジアと日本

公益財団法人アジア学生文化協会

創立 60 周年記念シンポジウム

～アジアの人材育成と 日本留学の課題～

当財団設立の 60 年前と現在では、日本もアジアの状況もだいぶ様変わりしています。また、留学の目的も推移しています。これからどこに向かうのか、各地で活躍する元留学生に多角的視点から語っていただきます。

創立 60 周年記念シンポジウム

基調講演 曹其鏞 (K. Y. Ronald Chao)
百賢アジア研究院名誉理事長

アジア次世代指導者奨学金プログラム (AFLSP)
創設と期待

シンポジウム

パネリスト

岡部洋一、スポン・チャユツアハキット
ヘン・フチョン、李景珉、呂新一

モデレーター 符祝慧

(敬称省略)



お申込み:

アジア学生文化協会

Fax: 03-3946-7599

TEL: 03-3946-4121 (代)

mail: asca60com@abk.or.jp

URL: http://www.abk.or.jp

2017 年 9 月 15 日(金)

14:00~16:30 (受付:13:30)

会場

文京シビックホール
小ホール(南 2 階)

参加費: 無料

使用言語: 日本語

ご紹介

曹其鏞 (K. Y. Ronald Chao) 元 ABK 在館生、東京大学工学部卒、百賢アジア研究院 (BXAI) 名誉理事長、香港ノーベル・エンタープライゼス・リミテッド副会長。

岡部洋一 (Okabe Yoichi) 前放送大学学長、東京大学/放送大学名誉教授。東京大学先端科学技術研究センター長、同情報基盤センター長を歴任。

スポン・チャユツアハキット (Supong Chayutsahakij) 元 ABK 在館生、東京大学大学院・工学修士、泰日経済技術振興協会 (TPA) 元会長、泰日工業大学 (TNI) 理事長、バンコク高速道路 (株) 取締役副社長。

ヘン・フチョン (Heng Fu Chong) 元 ABK・新星学寮生、京都大学卒、ドイツ在住、ボン大学で日本事情/アジア学等の教鞭を執る。

李景珉 (Lee Kyung Min) 元新星学寮生、バリ大学政治学部卒、同大学院博士課程を経て京都大学人文科学研究所で学ぶ。京都精華大学、京都大学文学部講師を経て札幌大学文化学部教授。専門は、朝鮮政治史、国際関係論。呂新一 (Lu Xinyi) 元 ABK 在館生、中国政府奨学生として来日。東京大学大学院・工学博士、米国、欧州の投資銀行、並びに大手邦銀でチーフ・ストラテジストとして務めた後、金融コンサルタントを経て現在シンガポールの金融機関勤務。

符祝慧 (Foo Choo Wei) 元 ABK 在館生、日本大学芸術学部/東京大学大学院情報学環修士卒、シンガポール国営放送ディレクター、東京放送等を経て、シンガポール「聯合早報」東京特派員。

主催 (公財) アジア学生文化協会 協賛 (公財) 東芝国際交流財団

TIFO
Toshiba
International
Foundation